

行政向けの山古志現地見学会を開催

中越地震が発生してから20年が経過し、令和6年11月20日（水）、自然災害の恐ろしさとこれに対する心構えを考える機会として、行政向けの山古志現地見学会を開催しました。

講師として当時中越地震復興対応に尽力された湯沢砂防事務所のOBの山本氏、関氏、南雲氏の3名をお迎えし、東竹沢地区河道閉塞現場等5箇所について説明を受けるとともに、やまこし復興交流館「おらたる」を見学し、当時の災害復旧の状況を振り返りました。

見学会には中越地区の国交省5事務所、新潟県長岡地域振興局、長岡市の職員約60名が参加しました。



東竹沢地区河道閉塞発生現場



神沢川砂防堰堤施工現場



梶金地区地すべり対策施工箇所



郷見庵での記念撮影